

武蔵野市環境啓発施設運営会議（第4回）議事要録

日 時 令和2年7月21日（火）開会 午後7時 閉会 午後9時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員10名、事務局6名

小澤委員長、鈴木副委員長、池上委員、宮坂委員、中西委員、塩澤委員、梅田委員、越智委員、後藤委員、荻野委員

- 1 議事 (1) 第3回運営会議の意見・質疑について
(2) 令和2年度事業の実施について
(3) サポーター制度について
- 2 その他 (1) 視察について
(2) 次回の日程調整について

新委員自己紹介

(後藤委員、荻野委員)

発言者	要旨
委員	中学校のPTAから来た。わからないことばかりだが、皆さんと一緒に活動しながら学んでいきたい。
委員	4月から武蔵野市の環境部長に着任した。昨年度末から、コロナの影響で会議が開けず、中止、延期、書面開催を経て、今日のWeb会議となった。エコreゾートの当初の目的である、「小さく生んで、大きく育てる」という形で会議を積み重ね、皆さんでエコreゾートを大きくしていきたい。

1 議事

(1) 第3回運営会議の意見・質疑について

発言者	要旨
事務局	前回書面開催でいただいた4つの意見・質疑への回答について、資料2を基に補足、説明。
副委員長	SDGsについては、企業側の功利的な考え方に疑問を抱いていた。自然に対する考え方が、かなり人間中心になっているのが気になり、さらに普遍的な考え方の導入を求めた。
委員長	今後の会議において、そのことも柔軟に議論していきたい。

(2) 令和2年度事業の実施について

発言者	要旨
事務局	資料3について説明。令和2年度の事業は中止、延期、オンライン開催という3つの選択肢しかなく、事務局としても歯がゆい。
委員長	副委員長が指摘された「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の中で、どんな施設名にすべきなのかというのは大きな課題。一方、コロナ禍の中で、環境啓発の取り組みをどうやって進めていったらよいのかという小さな課題については、皆様から事務局にアドバイスをいただけたらと思う。
委員	今後、エコリゾートの事業はどうやって形にしていくのか？進め方が見えない。模索中なのか、それとも、今年度中またはオープンに合わせて実施していくというストーリーがあるのか。
事務局	市民参加で進めていくべき連携会議などが進めづらい状況にあるが、当初の予定どおり11月8日の開館に向けて準備を進めている。サポーターや利用のあり方など、市民参加の核となる部分は、開館には間に合わないかもしれないが、きちんと時間をかけて詰めてから始めればよいと思っている。部長の挨拶にあったように、小さく生んで、だんだん大きくして、進化していくイメージで考えている。
委員	必ずしも開館に向けて事業を無理に合わせている訳ではないということが共有ができてよかった。
副委員長	今後のことが分からない。開館の日程は決まっていますが、具体的に動く、具体的に決めていく状況ではない。どういう風にこの施設を運営していくかは決まっていますので、そのことだけでもアピールすることに意義がある。あまり焦って、予定調和的に進めていく前提にはしなくてよいのでは。
委員長	この施設の意図として、もともとのクリーンセンターの思想であった、「低炭素モデルの実現」や磨き合い、学び合う関係性が、事業名から見えてこない。
委員	同じ感想。目指すべき目標と事業が線で結びついていると分かりやすい。最終的にはそうしてほしい。今は、市民参加で話しにくい状況であり、急ぐ必要はない。目標に向けて動くことが大事。
副委員長	市民と集まれる状況ではないが、集まらずにできること、最初の理念を何らかの形で宣言する。いろんな情報を集め、今までの歴史を集約する、情報の提供に力を入れればよいのではないかと。
委員長	事業名だけが一人歩きしてはいけない。つながりが見えなくなってしまう。武蔵野市の歴史への理解がないと深まっていけない。

副委員長	「リゾート」という言葉の響きが気になる。市民は第一印象として、どういう施設と受け止めるか。何を目指しているのか、具体的に示さないといけない。
委員	エコ re ゾートを市民PRすることができなくなった。他の手立てでPRを考える必要がある。エコ re ゾートが目指している理念やそれを決める経緯をロゴマークやキャラクターを使ってPRをした方がよい。
委員	今の環境の変化に危機感を抱いている。ナガサキアゲハは以前、九州などの南方にしか生息していなかったが、現在は武蔵野市でも見られ北上してきていることがわかる。温暖化が身近でも進んできている。啓発だけではなく、行動へ参画できるようにするとよいと思う。
委員	事業が軒並み中止なのはやむを得ない判断。コロナを機に、これまでクリーンセンターやエコ re ゾートに興味がなかった人に対して、一定のSDGsに関する知識をインプットする機会をオンライン等で手段として提供できるのではないか。秋のオープンに向けて、幾度かそういう仕掛けをつくれば、武蔵野市がどういうことをやろうとしているのか、エコ re ゾートに行けばこういう体験ができるということがわかるアピールができる。機会があれば、自分も協力したい。
委員長	新しい職員を迎えたので、キャラクターを使ったエコ re ゾートの情報発信の方法や、新しい事業を考えてもらえればよい。
委員	大きな目標を示した方が、小さく生んで、大きく育てるより早く物事が進むのではないか。時間がかかるのを言い訳にするべきではないと思う。
委員長	今まで積み重ねてきた大きな目標を基に、事業をきちんとやっていけば問題ないと思う。
委員	生物の多様性のことなど、普段は専門的に考えたりしないことだが、今だから知ることができることがある。オンライン授業は、授業をする方は大変だが、生徒にしてみたら1対1の感覚で、学生たちからの質問が普段より多いというメリットがある。今、活動がうまくいかない団体に対して利用できる方法、「ここがあってよかった」という場所、あるいはオンラインでしか聞けない話が聞ける場になるとよい。
委員	エコ re ゾートでやりたいことが止まっている。災害がおき、コロナ自粛で何もできない。今、異常気象の中で、災害やコロナを身近に体験したからこそ、環境が「おかしい」、「どうして」という声をアンケートで集める取り組みをしても、おもしろいと思う。長雨で不作に

	よるねぎの高騰など、身近な観察から生じる問題をエコ re ゾートで展示するとよい。
委員長	「ぺちやくちゃナイト」「しゃべらナイト」という企画もあったから、そういうところから始まってよいと思う。自分たちの生活と地球のつながりも理解できるし、1か所になぜ集中的に雨が降るのかということも理解できる。大雨が降っても、ダムの放流がなぜできないのかという問題は、日本のシステムの問題でもあるので、その矛盾についても話し合えるだろう。そういったアイデアを新しい職員の方、委員の方からもメール等で事務局に出してもらえるとよい。
事務局	当初のコンセプトなどが事業名に現れていないのは確かで、現時点では、施設全体でどんな事業を実施するのかをお示しする事業計画ができていない。施設のコンセプトや考え方に基づいて、どんな事業をどんな手法で実施するのか、体系的に示すことができ、初めて見ていただけるのではないかと思っている。アピール不足については、現在、PRプロジェクトで、高校生・大学生によるHPなどの広報ツールを作成しているため、その進捗状況を次回の会議でご案内したい。

(3) サポーター制度について

発言者	要旨
事務局	資料4について説明。素案、たたき台のため、ご意見を伺いたい。
副委員長	無償か？サポーターへのメリットは何か。
事務局	無償。有償・無償様々なボランティア制度があるが、この施設については、施設に関わることが楽しいと感じてもらうことをメリットと考えている。
委員	将来的に常駐になるのか。それは職員の補助という形か。
事務局	2年間の検討市民会議の議論の中で、市民参加型の施設として、市民の方々に関わっていただく、運営を担っていただくことを想定している。先々、運営を担えるような団体が育てば、常駐していただくこともあり得る。
委員	価値観が違う団体同士で組み合わせるのは難しい。サポーターは、相当人選して優秀でないと案内人程度しかできないのではないか。
委員長	職員との関係性も考えないといけないが、ディレクター・コーディネーターもいる。
委員	募集前にもう少し整理して、どういう人を集めるか考えた方がよい。エコ re ゾートのスタッフの下につく人なのか、それとも団体

	<p>と連携して施設をまわしていくのか、新しく来館した人を案内する役割なのか。いろんな場面が想定されるから、現状ではうまく募集がかけにくい。</p> <p>施設の使い方のルールとか、どういう事業をどう展開するのかがある程度見えてこない、という役割がサポーターなのか見えてこない。</p>
委員長	<p>組織図を作り、議論にかけた方がよい。連携会議では、自分たちのやりたいことをやれると考えている方たちが見受けられた。その点を誤解されないように、構造図が必要かもしれない。</p>
副委員長	<p>勤務・出勤の条件はどのようになるのか。</p>
事務局	<p>まだ案の段階だが、受付などをお願いするサポーターさんであれば、開館時間の午前9時半から午後5時に合わせて、午前・午後の2交代制を想定している。</p>
副委員長	<p>イラストやWeb担当など、開館時間に限らない勤務体制もあるのではないか。</p>
事務局	<p>資料4(3)のその他の業務で、イラストやWeb関係の業務にサポーターが参加することや、開館時間に縛られないサポーターがいることは想定していた。</p>
委員長	<p>委員の皆さんは、サポーターに対して共通のイメージが持っていない。素案なので、自由に意見を聞きたい。</p>
委員	<p>例えば、(2)は市内のコミセンなどで出前講座をする専門的な知識やノウハウを持つ方など、(3)のその他については、Webなどを使った施設の情報発信ができる方など、いろいろな形でこの施設に貢献していきたいと思っている人が対象になると思う。具体的に、こういうスキルのある方を求むなど、施設として例示をすればよいのではないか。関わりたいと思っているけど、どう関わっていけばよいかわからない人たちもいると思うので、関わり方のパターンをいくつか示せばよい。柔らかい文章や人物像を示すと、公募をかけた時に、イメージが付きやすいのではないか。サポーターに興味を持つ人が増えるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>例えば、梅田委員であれば、自然のことについて「異常気象と自然の関係」を企画して講演していただくのはどうか。私の場合は、武蔵野市は小中学校との教育現場のつながりが少ないから、2週間に1回、土曜の午後、小中学校の先生方を対象に、「授業づくり」のアドバイスをプラットフォームでしようと思っている。文科省と環境省から講義を委託されていることもあり、「学校の先生方の困りごと</p>

	相談のります」のようなことなら、サポーターとして協力できるかなと思う。
委員	サポーター無償は決定か？
事務局	予算化できないため、「無償」である。
委員	受付業務などは、職員がやるべきことだと思う。無償でやってもらうには違和感がある。その他のアイデアを出してもらう、専門的な知識をつけ、サポーターを養成するといった位置づけはよいと思う。管理・運営のサポートは、市民に無償でもらってよいのかと懸念した。
委員	<p>今回、コロナの影響で市の施設が全部使えなくなった。市の施設が使えなくなり、家に閉じこもる人もいた。コロナで公共の施設が役に立たないということが分かった。その経験を経たので、エコ re ゾートをどう市民が使うかを真剣に考えた方がよい。さらに新しいウイルスが蔓延して、エコ re ゾートが使えなくなっても、地域社会がエコ re ゾートで育まれた関係性・行動力・知恵を持ち寄り、地域の中で、地域の責任で、地域に必要なことをできるような活動方法、地域力を身につけたい。それはエコ re ゾートを支える3本柱である「地域力の向上」にも繋がってくる。行政の枠組みとは異なる地域コミュニティで、公共の施設に依存しないといけないというのはあまりよくない。</p> <p>新しい職員の方やサポーター、またエコ re ゾートを使用する団体、市民がどういう活動をしていくかという、新しいテーマがここで湧いてきた。</p> <p>市が行う事業、団体と連携して行う事業、団体が自らやる事業と3つに別れているが、団体に関しては、自分たちでお金を出し合っていく、よりよい使用の仕方があるのではないか。事業をやるために、サポーターに無償でやらせるのではなく、この施設を利用したい団体が、自ら受付業務を行うことに期待した方がよいと思う。</p>
副委員長	<p>同じ意見である。「アフターコロナ」の施設運営がどうあるべきかを考えるべきだ。「ただほど高いものはない」が、「ただで価値を生み出せば、コストパフォーマンスは無限大になる」。ペイがあると、それに応じた責任・決められたことしかやらなくなることがあると思う。無償であれば、予算がないことを逆手にする。そういうのを引き出せるような受け皿があればよい。無償であることを有効に生かせるように、実際の事業を効果的にするために見守っていく必要がある。自分もサポーターをしてもよいと思っている。無償だと束</p>

	縛されず自由でもあるので、ある程度義務化したり、サポーター業務の内容を検討したりする必要があると思う。サッカーのサポーターのイメージがあるが、コーディネーター・ディレクターとの業務区別はどうなるのか。応援団としてのサポーター？アドバイザー的なサポーター？
委員	サポーターについては、事務局としては、現在無償として考えている。ただ、市民団体が施設を運営するようになり、「小さく生んで、大きく育った」場合には、最終的には有償になるイメージは持っている。サポーター制度の考え方はざっくりと案を示したため、今、意見をいただいた中で、これからブラッシュアップして、どんな形がよいのか、今後の会議で話し合っ決めていくことができると思う。

2 その他

(1) 視察について

発言者	要旨
事務局	視察の実施が困難な状況になっている。事務局が視察していただきたかった施設の HP 等を、近日中に委員の皆様宛にメールでご案内する。

(2) 次回の日程調整について

発言者	要旨
事務局	日程候補を提示した結果、9月7日（月）午後7時からに決定。
委員長	第4回運営会議を終了する。

以上